



「八千代の丘美術館」の活用

美術館は、行政にとって必要かつ重要な施設であります。美術館の建設は容易にできても、収蔵する作品を収集することが非常に困難であるため、美術館の建設を見送る自治体が多いのが現状であります。近傍島根県の足立美術館は横山大観の作品を展示する美術館として、三次市の奥田元宋・小由女美術館は奥田元宋の作品を展示する美術館として建設されました。

本市には、旧八千代町から引き継がれた、「八千代の丘美術館」があります。この美術館は、有名作家の作品を展示するのではなく、新鋭作家の皆さまに、作業場を併設した展示場を一年間、一人一棟無償で使用していただくと同時に、創作した作品を展示していただく「長期個展」のシステムを取り入れています。15棟のアトリエ（作業場）を併設したギャラリー（展示場）があり、毎年入館される新鋭作家の皆さまが、一棟一棟で異なる個性を存分に発揮して活躍をされています。退館時には、作品を1点寄贈していただいております。これまで、17年間で延べ242人の方から、243点の作品を寄贈していただいております。

入館作家の選定にあたっては、比治山大学名誉教授寺本泰輔氏を会長とする「八千代の丘美術館作家選定審査会」において、部門（洋画・日本画・彫刻・陶芸・書道・刻字・染色等）、性別、年齢構成のバランスを考慮した上、相当な水準を有する作家を厳正に選定されています。入館作家に選ばれることは、広島地方の芸術・美術作家にとつてのステータス・シンボルとなっており、本市にとつて心強い現状であります。

入館作家の皆さまには、作品展示のほか、市の文化・芸術の振興にご協力をいただいております。特に市内の小・中学校や文化センターなどで、美術講座を積極的に行っていただいております。また画像指導等の実技教室を毎年実施されております。当館で開催する小・中学生の自画像展では、指導の成果が見られ、レベルの高い作品が展示されています。

今後の展望としては、市の人口減対策の一環として、入館作家の皆さまが、本市の「関係人口」として、本市に興味を持ち、施策や行事に参加していただき、移住・定住に繋がることを願うものであります。そのためには、これまで入館作家の皆

さまから寄贈していただいた243点の貴重な作品を大切に展示・収蔵するスペースを確保する必要があると思えます。また、美術館による文化的な広がりには本市に限らず、行政区域を越えての効果が期待できると思えます。入館作家の皆さまは、ほとんど市外の方（広島市159人・廿日市市15人・呉市14人・東広島市12人・安芸高田市7人・その他35人）であり、広島県全体の文化・芸術の振興に大きく寄与している美術館であります。広島県・広島市の行政及び市民の皆さまに美術館の意義を理解していただき、広域の美術館として認めていただくべき努力をしていきたいと思います。

